

三平山の山頂へ向かう4.5キロの登山道は、蒜山高原で最も人気が高いハイキングコースの1つである。この登山道は、300メートルほどのなだらかな標高を登るのみである。そのため、ほぼすべての年代、能力のハイカーに適した道となっている。また、この地域で最高の眺めのいくつかを堪能することができる。

三平山（1,010m）は、鳥取県と岡山県の県境にまたがり、大山隠岐国立公園の南のエリアを見下ろすことができる、絶景スポットとなっている。山頂から北の方角には、巨大な休火山である大山（1,729m）が佇んでいる。東と北東には、起伏のある蒜山高原と、蒜山三座と呼ばれる「蒜山の三峰」のこぶのある稜線が見える。

登山道は、針葉樹とオークの森など、贅沢な様々な景色の中を通過する。三平山の山頂付近では、笹とすすきの広い野原が斜面を覆っている。房のある頭を持つすすきが秋風の中でさざ波を立てる様子は、秋を彷彿とさせる、心に残る光景だ。

1898年、日本軍は、この野原を、馬の育成、訓練に利用した。この目的で、2,300ヘクタールの牧草地が、全長56キロメートルの土の壁で囲われた。このうち46キロメートルが現存している。この土塁の一部は、山頂付近の道沿いに走っている。

登山口となる駐車場から北西に、よく整備された環状のルートを手で登り、穴ヶ峠ルートを通って下山する。観光客が1周まわるには、2時間弱かかるが、山頂から元来た道を戻るだけでもよい。その場合、時間はおよそ80分に短縮される。